

水稻「実りつくし」の収穫適期

筑後分場、農産部

1 背景、目的

水稻新品種「実りつくし」は、「ヒノヒカリ」に比べて多収で、品質が安定して優れることから、中食・外食向けとして期待されています。水稻は、収穫時期の違いによって品質、収量が変動しますが、その適期は品種によって異なります。そこで、「実りつくし」の安定した生産を図るために、外観品質が優れ、収量がより多く確保できる収穫適期とその判定基準を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 外観品質が良好で、検査等級が1等となり、収量がより多く確保できる「実りつくし」の収穫適期は、出穂期後積算気温が970～1,190℃となる時期です(表1、図1～2、一部データ略)。
- 2) 黄褐色粳比率が70%に達した時期から収穫が可能です。また、この収穫適期における粳水分は22～26%となります(表1)。
- 3) 「実りつくし」は早刈りすると青未熟粒が混入し、遅刈りすると乳白粒の発生が多くなり、検査等級が低下するため適期収穫を徹底する必要があります(図2)。

3 主要なデータ・画像など

表1 収穫適期の基準

	出穂期後積算気温 (°C)		籾水分 (%)		黄褐色籾比率 (%)
	早限	晩限	早限	晩限	早限
実りつくし	970	1,190	26	22	70
ヒノヒカリ	900	1,050	28	22	70

注) 出穂期後積算気温とは、出穂後の日平均気温の累積値

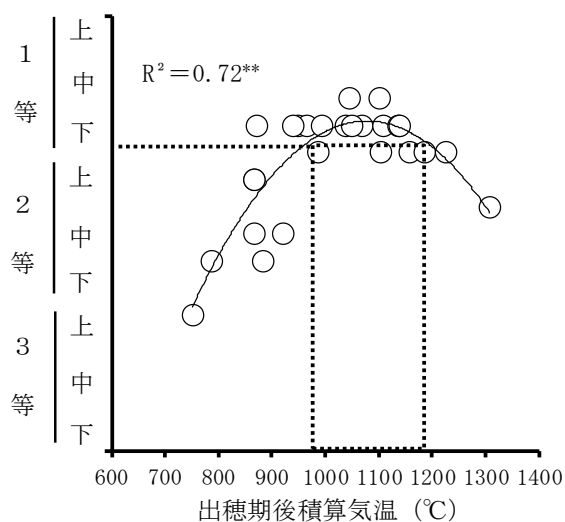


図1 出穂期後積算気温と検査等級

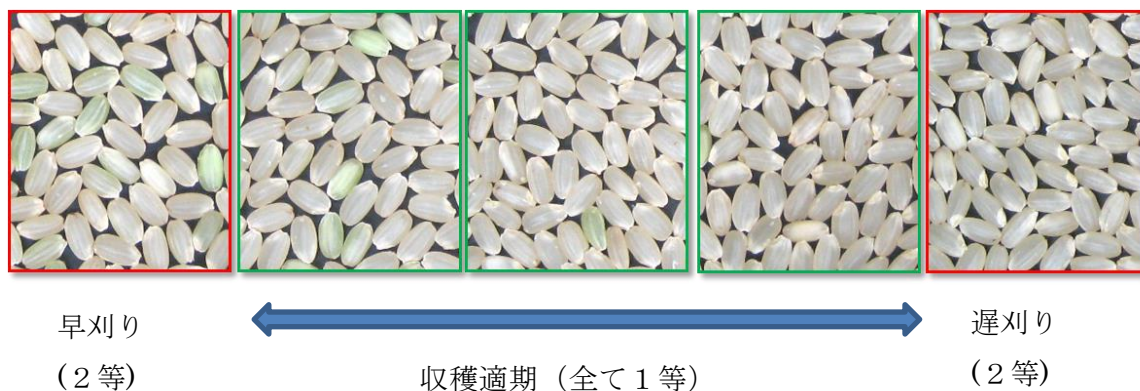


図2 収穫時期別の外観品質